

379) 子供のころ

子供のころに遊んだ土手を	たったひとりで歩いてみたい
父の背中で毎年見てた	お盆の夜の打ち上げ花火
あのころのやさしさに	もういちど会いたくて
ふるさとの土手に来て	思い出を追いかけた
子供のころに遊んだ丘に	たったひとりで登ってみたい
思い出すのはあの娘が摘んだ	松虫草の紫の花
あのころの恋心	今はもう夢の中
ふるさとの丘に来て	初恋を追いかけた
子供のころに通った道を	たったひとりでたどってみたい
学校に行く畑の道は	リンゴの花の香りがしてた
あのころの友は皆	いつの日か散り散りに
ふるさとの学び舎に	幼き日追いかけた
子供のころに泳いだ川を	たったひとりで見つめていたい
少年の日に描いた夢が	川面に映りゆらゆら揺れる
それぞれの時はすぎ	それぞれに秋はゆき
ふるさとの川に来て	歳月を追いかけた